

「新しい歴史教科書をつくる会」の歴史教科書・公民教科書を採択することを許さない決議

「新しい歴史教科書をつくる会」(つくる会)が編集した中学用歴史教科書・公民教科書が検定を通過し、全国の教科書採択地区において「採択」に附されることになった。

「つくる会」教科書は、戦争を賛美する教科書として4年前、国内外から厳しい批判を受け、全国542の公立中学校・採択地区でひとつも採択されることはなかった。「つくる会」は、この結果に「リベンジ」を公言し、教科書の記述をより危険な内容に改訂して、ふたたび検定申請に及んだものであり、平和を求める世論に対する重大な挑戦といわなければならない。

「つくる会」歴史教科書は、日清・日露戦争以降の日本の戦争を美化・正当化し、アジア太平洋戦争を「大東亜戦争」と呼び、日本の防衛戦争・アジアを解放するための戦争と評価する。また、「つくる会」は、先の戦争を侵略戦争とする立場を「自虐史観」と批判しつつ、歴史の科学性を否定する。そして、歴史を学ぶことを「過去の事実について過去の人々がどう考えたかを学ぶこと」であり、「今の時代から見て、過去の不正や不公正を裁いたり、告発することではない」とする特異な歴史観にたち、歴史的事実を自分の都合のいいように改ざんするのである。

「つくる会」公民教科書は、4年前のものを一新し、日本国憲法の理念である基本的人権の尊重や恒久平和、国民主権に価値を見い出さず、軍事と公共ばかりを強調し、日本国憲法を「押しつけ憲法」「世界最古の憲法」などと非難し、日本を「戦争する国」にするための憲法「改正」へと子どもたちを誘導する内容になっている。改訂された「つくる会」公民教科書は、武力による「平和」を強調し、アフガン戦争やイラク戦争に対する自衛隊派兵を積極的に評価する一方、領土問題や「テポドン発射」「不審船」など近隣諸国への関係に対立と緊張一色に描き出すなど、より危険な内容に書き換えられたものである。他方、権利よりも義務が強調され、基本的人権の重要性や豊かな内容については触れられていない。

また、「つくる会」は、「つくる会」公民教科書の監修者を、経歴を秘匿して県教育委員に就任させてまで「採択」を獲得しようするなど、その謀略的な手法はおよそ教育とは無縁なものとして、つよく批判されなければならない。

人権と民主主義の担い手として子どもの成長を願い、この国の未来、アジアと世界の平和を思うとき、「つくる会」教科書を絶対に子どもたちに渡してはならない。

自由法曹団は、「つくる会」の策動を許さず、その教科書を採択させないために、広範な人々と手を結び、全力を挙げて奮闘することを決意するものである。

2005年5月23日

自由法曹団山形研究討論集会